

教育委員会会議議事録

1 日時

令和3年8月5日（木）

会議開始時刻 14:15 会議終了時刻 15:10

2 会場

市役所11階 教育委員室

3 出席者

○教育委員

教育長 阿形 博司

教育長職務代行者 藤本 禎男

委員 森崎 陽子

委員 波床 昌則

委員 打田 雅子

○教科用図書調査事務局

事務局長 津守 和宏（教育局長）

事務局次長 東 康修（学校教育部長）

事務担当課長 古田 清和（学校支援課長）

竹内 伸之（学校教育課長）

岡本 友尊（教育研究所長）

事務局員 北林 直樹（教育研究所専門教育監補）

○選定委員

選定委員長 谷尻 治

選定委員 北野 美江

4 開会

阿形教育長

それでは、議案第18号について説明をお願いします。

津守事務局長

議案第18号は、「令和4年度から使用する和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書採択について」ご審議いただくものです。これより、令和4年度から使用する和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書採択のための定例教育委員会 採択審議をお願いいたしたく存じます。

これまで、教育委員会は、和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書の採択に関する条例に基づき、令和3年7月9日付で選定委員会に対し、当該教科書の選定について諮問を行いました。選定

委員会におかれましては、教科書について熱心な調査・研究・審議を行い、審議結果を答申としておまとめくださいました。本日は、同条例第3条の規定に基づき、選定委員会から答申をいただきます。

これを受け、教育委員会では、今後、8月31日までに、令和4年度から使用する和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書の採択を行います。

教育委員におかれましては、和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科書採択基本方針を踏まえ、採択権者の責務として、市の子供にとって最も適切な教科書を採択するためのご審議をお願いするものでございます。よろしく願いいたします。

それでは、これより事務局の説明は、教育研究所長 岡本に行かせます。

岡本教育研究所長

本日の採択会議日程について、先にご説明を申し上げます。

これより、選定委員会の答申を受け、中学校社会科歴史分野のご審議をいただきます。答申は、選定委員長に続き選定委員から行っていただきます。答申のあと、質疑応答のお時間を設けたいと存じます。質疑応答が済み次第、選定委員には退出していただきます。選定委員の退出後、教育委員の皆様にはご審議をお願いいたしたいと存じます。

阿形教育長

それでは選定委員の方の入室をお願いします。

岡本教育研究所長

それでは、はじめに、和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会 谷尻 治 選定委員長より、ご答申をいただきたいと存じます。谷尻選定委員長、よろしく願いいたします。

谷尻選定委員長

和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会委員長、谷尻 治です。教科用図書選定委員会において、これまで審議してきたことを答申としてまとめ、報告いたします。

和歌山市教育委員会教育長 阿形 博司 様

令和3年7月9日付和教研第232号において、和歌山市教育委員会 阿形 博司 教育長から、令和4年度に和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書の選定についての諮問がありました。

これを受け、和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会は、教科書について調査研究を進め、同月9日から3回にわたり審議を重ねてきました。

ついては、ここに、審議結果を「令和3年度和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会答申」として取りまとめ、「令和3年度和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会答申資料」を添えて答申します。

令和3年7月21日

和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会

阿形教育長

熱心なご審議ありがとうございました。答申を、確かに拝受いたします。

歴史

岡本教育研究所長

それでは、歴史 自由社 について答申及び答申資料のご説明をいただきます。委員のみなさまは、お手元の答申資料をご覧ください。歴史のご答申は北野選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくをお願いいたします。

阿形教育長

北野選定委員、歴史 自由社 の答申及び答申資料のご説明をお願いいたします。

北野選定委員

「歴史 自由社「新しい歴史教科書」の答申をいたします。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を申し上げます。答申資料に基づいて、報告いたします。

(自由社)

答申

各時代の構成はその分量が適正でバランスが取れている。「身近な地域」の学習についてはまとまったページもあり複数取り上げている。「思考力、判断力、表現力等」を養うことができ、「歴史に関わる事象の意味や意義、伝統文化の特色などを、時代や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目」して記述されている。

教科書の方は、総ページ312となります。ページ数のカウントは300ページとなっておりますが、教科書の最後のページのところには年表等を入れますと312ページとなります。それぞれは、全体的にバランスが取れたようになっております。少し古代は多いのではないかなというところではありますが、バランス的にはよろしいかと思えます。

「身近な地域」のところでは、第3節の「地域の歴史を調べる」ページがあり、自分たちの暮らす町の歴史を調査する際、生徒の探究をうながすような課題学習がそれぞれ記述されています。

19ページをご覧ください。こちらには導入の活動として、学習する時代の年表、小学校で学んだときの人物や写真が付されています。その中で、子供達が興味関心を得るということは大変よろしいかと思えます。またこのページの中に、さくらさんと翔太君というキャラクターがございます。この子達のセリフによって、学習のポイントを示唆しているのではないかと思えます。

各章の章末の辺り、例えば64ページをご覧ください。調べ学習をするという課題があります。それと、66ページは復習問題という形になっております。時代の特徴を考えるというページになりますと

67ページは面白いかと思います。歴史用語ミニ辞典をつくるという課題であったりとか、時代の比較の問題、作文、意見交換会などの多彩な学習活動を提起しています。

290ページをご覧ください。290ページ、291ページには重要な用語の解説があり、本文で扱えなかった部分があります。裏表紙裏には西暦と元号の便利な資料がこの教科書にはあります。

あと、学習指導要領が示す国家、社会、文化等に尽くした人物が過不足なく取り上げられています。その面も特徴的だと思います。

38ページをご覧ください。38ページから41ページまでの間には、天皇に関わる神話が取り上げられていまして、国語科との関連性も高いところです。

126ページ、127ページでは身分制度についてです。その中に、「江戸の社会の平和と安定」と表記があります。「これとは別に、えた・ひにんとよばれる身分が置かれました。これらの身分の人々は、農業のほか、牛馬の死体処理、武具の皮革製品などの特殊な工芸に従事し、特定の地域に住むことが定められているなどきびしい制限を受けました。」という記述があります。百姓一揆については穏やかにことを収めようとしたのが普通のやり方でした、という記述があります。

コラムの中には「身分制度と百姓・町人」に「士農工商」と表記している、というところがあります。私たちが身分制度を生徒の皆さんに指導するとき、このような形の百姓一揆は特に、穏やかにことを収めようとしたのが普通のやり方でした、という記述が今までになかったような感じがします。

近隣諸国のことなんですが、北方領土の問題は262ページにあります。263ページ竹島問題、尖閣諸島のことについて取り上げています。その中には、尖閣諸島については「尖閣は日本固有の領土であり領土問題は存在しない」と記述しています。

次に、232ページのところでは日中戦争の始まりについて、盧溝橋事件から通州事件と続き「中国側は日本人への襲撃などの挑発をやめず、日本側も主戦論と和平論の間をゆれ動くなど一貫性を欠き、紛争は収まりませんでした。」と記述しています。南京事件については、「日本軍は国民政府の首都の南京を落とせば蒋介石は降伏すると考え、12月に南京を占領しました」と記述があります。この部分も特徴的と感じました。

和歌山県関連のところでは、裏表紙に「紀伊山地の霊場と参詣道」があり、他にも「弘法大師」、「紀伊湊」、「ノルマントン号事件」、「エルトゥール号」などたくさんの事が記載されています。あと和歌山県関連の中で一番特徴的なのは280ページのエルトゥール号のところで、たくさんの記述があるというところは他社では見なかったというふうに感じました。あと、180ページと181ページには「ノルマントン号事件」があり、「陸奥宗光の議会演説」という条約改正に関する記述があるのは、この教科書で初めて見させていただきました。以上です。

阿形教育長

ご丁寧に説明いただきありがとうございました。ただいま報告いただいた内容について質問等がありましたらお願いします。

藤本委員

どうもありがとうございました。私この自由社の歴史教科書を見せていただいたんですが、今生徒につけたい資質・能力に関する歴史的な見方・考え方の所を探したんですけども、自分自身の力不足で見

つけることができなかつたんです。例えば自由社であれば、どこが時系列になっている見方・考え方なのか、それから比較をされているところとか、そういうところがあれば教えていただきたいです。

阿形教育長

いかがでしょうか。

谷尻選定委員長

先ほども、北野選定委員から報告がありましたが、各章の終わりに特色のあるページがありました。どの章にも設けてあるんですが、特に数字の3「時代の特徴を考えるページ」というものが設けられています。第1章でいうなら67ページ「時代の特徴を考えるページ」、例えば古代という時代の特徴を大つかみにとらえるために、部分的な知識だけじゃなくて時代を大局的に捉える、そういうことをやってみましょうというのが、このページにふんだんに盛り込まれています。中身を見ると中々難しい部分もあるのかなと思ってよく見てみると、例えば右の方に「ひとこと作文」があって、「古代とは一言で言うと〇〇の時代だった。この〇〇に1天皇、2国作り、3貴族、4神話、5仏教1つ選んでそれを400字で説明してみよう。」と説明がつけられています。まさにこれは歴史というものをどう見るのか、見方・考え方の養成に繋がるかなと思います。こういうものが各章の終わりにつけられています。以上です。

阿形教育長

ありがとうございます。他に何かございませんか。

それでは、谷尻選定委員長、北野選定委員には退出いただきます。どうもありがとうございました。

続いて、歴史の審議に入る前に事務局に伺います。教科書展示会において歴史の教科書について意見はありましたか。

岡本教育研究所長

既に2会場14日間の展示会が終了し、歴史については77件のご意見がございました。事前にお配りしました資料「令和3年度教科書展示会アンケート結果」をご覧ください。

阿形教育長

事前にアンケートのコピーをお配りしているんですが、それをご覧いただけたらと思います。それでは少し時間を取りますので、委員の皆さんには教科書展示会で徴取した意見に改めて目を通していただきます。そのうえで歴史の審議に入ります。

アンケートについてご感想やご意見ございますか。

森崎委員

例年に比べて、非常にたくさんの方々のご関心をもってくださっていることがわかりました。

阿形教育長

今回77名ですかね、たくさんの方が興味関心をもっておられるということがわかると思います。アンケートについてご意見等ございませんか。

岡本教育研究所長

歴史では、我が国の歴史の大きな流れを理解し、諸資料から効果的に調べまとめる技能を身に付けること、歴史的事象を多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明・議論する力を養うこと、我が国の歴史・伝統・文化を尊重するとともに、他国を尊重し、国際協調の精神を養うことが求められます。このことを踏まえ、日本文教出版、自由社の2社のうち、どちらが本市の子供達にとってふさわしい教科書であるか、ご審議の上ご採択をお願いいたします。

阿形教育長

それでは歴史の審議に入ります。2社について審議し、1社を採択します。委員お一人お一人が事前に目を通していただいて、調べていただいたことやお考えになったこと、忌憚のないご意見を出していただいて、審議していただきたいと思います。

私からまず読ませていただいた感想を申し上げます。まず自由社ですけれども、一番最初に歴史を学ぶというところ、さらに8ページからの歴史と物語と史料、歴史とは何かというあたり、こういった部分を読ませていただきますと、特に8ページの「歴史とは何か」のあたりですね、左側の下から2行目あたり「歴史を学ぶとは過去に起こった出来事について当時の人はどのように考えていたかを学ぶことです。今の基準で過去を批判することが歴史を学ぶ目的ではありません。今とは異なる時代背景と価値観のもとでそれぞれの時代にはその時代の特有の善悪があり、特有の幸福があったのです。」と書かれています。こういった辺りの観点とか、神話が語る国の成り立ちとか、日本という立場から見た歴史、特に近現代史辺りはそういったことについてたくさん触れられているような気がしました。そういった特徴が1つあるのかなということです。

さらに先ほど北野選定委員からの報告にもあったんですけども、天皇に関わる神話を取り上げられている。これも当然日本文教出版の方にもあるんですけども、特に天皇に対する表記というのが大変多いと感じました。単純な比較だったんですけども、後ろに人名のさくいんがあります。人名のさくいんで見させていただいたら、自由社では天皇の名前が出てくるのが25人ありました。日本文教出版の方では14人でした。だから自由社は天皇を取り上げていることがかなり多いかなと。それから明治以降ですけれども、例えば明治天皇については自由社が10回の記載があります。日本文教出版は2回。大正天皇は自由社が1回、日本文教出版はありませんでした。昭和天皇については自由社が5回、日本文教出版が2回ということで、天皇に関する表記が多いということも一つの特徴だと思いました。

また、大東亜戦争という表記が多いんですけども、そういった中で戦争終戦にあたって聖断という言葉が使われています。これが黒のゴシックになっていまして、日本文教出版はこの表記はありません。この部分も含めて、確かに昭和天皇が終戦の意志を示した聖断だったと思うんですけども、そういう部分もこちらの教科書の特徴的な部分で編集についても意識されているのかなというふうに感想ですけども思いました。あと、人物それから事象・用語とかですね、日本文教出版で紹介されていないような

ことが結構いくつか載っておりました。中学生にとってそれがもしかしたらスタンダードになってしまうことも考えられるのかなということもちょっと思いました。ある程度歴史を学んだというのか、知っている人が読むとまたいろんな見方があるということで多面的に見られていい部分もあるのかなと思うんですが、中学生の最初の段階で学ぶのについてはどうかな、というふうに私はちょっと思いました。色々な見方があるということで面白いというのはいいんですけども、やや資料集的な感じもするのかなということをおもいました。

他の委員の方々どうぞおっしゃっていただければと思います。

藤本委員

先ほど谷尻選定委員長が言って下さったんですけども、章末に確かに歴史的な見方・考え方を考えさせるような部分はあったんですけども、やはり今新しい学習指導要領で言われておりますところは、日々の授業でこの本時の目標は何かということ、そして子供達は教科に対しての見方・考え方を1時間内にこういう見方で今回は勉強して行くんだよ、というようなところが大切にされていると私は思っております。そうした意味で考えますと、章立ての最後には載っていますけども、一時間一時間のこういうふうな流れで、時系列でこういうふうなところを今日は見方として考えてみようというようなところが見られなかったな、というふうに意見として言わせていただきました。

例えば、文化で見てみますと自由社の56ページ、57ページ。大体中学校といますのは社会科の先生は一单元50分で2ページをしなくては追いつかない。3年生の2学期になっても歴史をしなくてはいけない。そのようなハードな教科なんですけども、この2ページの中で飛鳥文化と天平文化が同じ時間に習うことになってしまうわけなんです。そうした時に、同じ時代であったのかなというようなところの間違いが生徒に起こるのではないかと私は思いました。そして、それだけではなくて137ページ江戸時代の文化を見てみますと、化政文化というのがたったの5行で終わってしまっているというようなことがあります。そしたらこの時の文化はこれで終わりだったのかということで、ちょっと記載が少ないのではないかなということをおもいました。だから文化のことについてあまり重きを置いていただいていないんじゃないかというところが見られたのが私の意見であります。以上です。

阿形教育長

ありがとうございます。他の方がいかがでしょうか。

波床委員

今回学習指導要領の改訂で、知識・技能の重視と言いますか、そこに重点を置いた教育から、思考力・判断力・表現力こういったものを育てる教育に重点を移しているわけですね。そういうことを考えた時に、これまでの歴史教科書というのはやはり暗記中心の教科書であって、あまりものを考えたり自分なりにまとめたりというふうなことは重視されてこなかったということがあると思います。したがって学習指導要領の力点の置き方の推移によって、今回やはり教科書については思考力・判断力・表現力を育て上げるようなものにしなければならない、ということだろうと思います。

それで現在使われております日本文教出版の本ですと、例えば戦争のことに第二次世界大戦の事について触れた部分について勉強する際に、ページ数で言えば252ページから253ページあたりでしょ

うか。まず戦争のことを勉強する時に、学習課題というふうな設定があって、「イタリア・ドイツ・日本の降伏の経緯に着目しましょう。」となっていて、第二次世界大戦の終結についてこういう意識で勉強すると。最後に確認のところではどうなっているかという、253ページの右下の方で「第二次世界大戦が人類に及ぼした惨禍をあげ、同じあやまちを防ぐためにはどのようなことが大切か話し合いましょう」。これは新しい学習指導要領の改訂に従って、思考をし、判断をし、表現力を養うということに沿った教材構成になっていることが明らかになっているわけですね。

この点、自由社の教科書では、例えば対応するページではなさそうですが、例えば250ページから251ページを見ていただくと、原爆の破壊力というものについて勉強することになっていて、原爆の投下戦争を終結させた大きな事象となっている、これは当然の認識として持ってしかるべき認識ですけども、ここに書かれている事柄を素直に受け取った場合、どういうふうに生徒さん達は感じるかという、日本は原爆というふうな非道的な大量破壊兵器を落とされた被害国である。「少年はなぜここに立っているのだろうか」。この写真は確かにローマ教皇が大切になさっている写真の一つで、最近も非常に話題になった写真で、これは是非生徒達にも知ってもらいたい写真の一つではあるんですけども。こういう自由社のような取り上げ方をすると、こういうふうな日本の少年が弟を殺されて焼き場で唇を噛み締めていた、こういう側面だけがものすごく強くなるんですね。しかし戦争を起こしたのはどういう原因があったんだろうか、ということを勉強する時にですね、片方だけが悪いとか片方だけが被害を受けたんだというふうな理解というのは、生徒さん達が多面的な考察を行う上においては、やや問題がですね視野が限られすぎていて、こういったことを知ることは自由社が指摘するような写真だとか事実を知ることが大事ですけども、だからといってこれで終わってしまったのは駄目だというふうに私は思うんです。したがって少し開かれたような教科書になっていなければいけない。ものの見方を教科書が教えるような教科書構成というのは好ましくないだろうと思っておりまして、その意味合いで、新しい学習指導要領の指摘する方向性に沿ったものとしては、やはり現在使っている日本文教出版の方が優れているだろうと私はそう思っております。以上です。

阿形教育長

ありがとうございます。他の委員の方がいかがでしょうか。

打田委員

単純に私の感覚でしかないんですけども、自由社の方が文字の情報がすごく多いと感じまして、子供達が勉強する時に、ちょっと内容も難しくしんどいのではないのかと最初に思いました。やっぱり日本の歴史の始まりは神話の話から入ったのは、ちょっと違和感といいますか、神聖化している感じがしました。教育長もおっしゃったんですけども、読み物として読む分にはすごく今までにない情報とかもあったので面白い教科書かなと思うんですけども、学校の歴史の授業として使うのは、保護者としては日本文教出版の方が適しているのではないかと思います。

阿形教育長

ありがとうございます。先ほど申し上げたんですが、いろいろな事象に対してある一つの見方を取り

上げてることが多いのかなという気がします。私が見つけられていないのかもしれませんが、日本文教出版でしたら253ページの戦争で亡くなった方の数字、各国の犠牲者が軍人と民間人に分けた数字が出てきます。自由社ではこういったものがない。要するに戦争をして両方にすごい犠牲をもたらしてそして民間人も巻き込まれていくんだ、そういった資料が私が見つけられていないのかもしれませんがなかったと思います。そういった部分で子供達が初めて詳しく学ぶ歴史として多面的な考えを育てる上でどうなのかなと私も感じました。

他の方いかがでしょうか。

森崎委員

私は、日本文教出版を続けて使用することを希望します。

昨年、7社の中から日本文教出版を採択した1つのポイントとして、「歴史」の「見方・考え方」を、生徒達に深めさせる工夫がみられる点があったと思います。どの出版社にも、複数の資料を基に歴史について自分の考えを膨らませたり、学んだことを踏まえて自分の将来にどうつなぐか等を、生徒自身が主体的に考えられるように導く教材が多く取り入れられていました。悩んだ末に日本文教出版を選んだことが思い出されます。

自由社は、写真・地図・グラフ等も美しく大きく見やすいもので、分かりやすく配置されています。内容としては特に、単元のまとめの教材として、関係する人物や事項についての逸話等を交えて詳しく紹介されているコーナーが、見開きで載せられているのが目を引きました。和歌山に関連する事項も含まれており、興味深く読ませて頂きました。また「歴史」について、生徒自身が主体的に取り組める仕組みも、他社同様に今回の改訂の狙いに則り工夫されています。その中で扱われている事項は、自由社独自の目線で深く掘り下げ解説されているように読み取れました。ただ、そこが面白さでもあるのですが、中学生がその内容を捉えるには少し難しさがあるのではないかと感じました。その点では日本文教出版が「見方・考え方」を深めるために設定している課題は、客観的で分かりやすく、中学生であってもそれぞれが考えを持ちやすく、話し合い等が展開されやすいもののように感じます。

以上のことから、日本文教出版の方を使用した方が良いのではないかと考えました。

阿形教育長

ありがとうございます。

皆さんいかがですか。皆さんのご意見聞きますと、日本文教出版を使うのがいいのではないかというご意見が多いんですけども、まだもう少しご発言がありましたらよろしくお願いします。特にないでしょうか。

この機会に自由社の教科書を私たちもしっかり読ませていただくことができよかったです。様々なご意見をいただきましたが、いろんな方面から総合的に見て、子供達に考えさせていくというところから見ますと、やはり少し日本文教出版の方が今の和歌山市の中学生には適しているということによろしいでしょうか。

それでは、皆さんに再度確認させていただきます。日本文教出版社を採択させていただいてよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

ありがとうございます。それでは昨年度の教科用図書採択において、歴史で日本文教出版の採択理由を読ませていただきます。「学習課題を提示し、様々な問いで探究の視点や方法を示すことにより、生徒が自分の考えを深められる工夫がなされている。また、大きく見やすい資料が適所に配置されている教科書である。」というのが採択の理由になっております。これをそのまま今回の採択理由とさせていただいてもよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

それでは、令和4年度に使用する和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書歴史の採択は、日本文教出版中学社会歴史的分野を採択理由とともに決定したいと思います。

岡本教育所長

続きまして、令和3年度教科書採択に係る資料公表の日程についてのご承認をいただきたく存じます。本日の参考資料「令和3年度教科用図書採択に係る資料公表の日程」をご覧ください。採択結果と理由、選定委員及び調査資料作成者の氏名については令和3年9月1日（水）を目途に、また、議事録、選定委員会答申資料及び調査資料については9月定例教育委員会において公表資料の確認と承認をいただいた後に、公表させていただきたく存じます。公表は市庁舎1階資料コーナー及び市のホームページにて行います。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

阿形教育長

只今、説明いただきました参考資料を見ていただけますか。今後の日程ですけれども、このような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

阿形教育長

ありがとうございます。それでは、事務局案のとおり公表することといたします。

これもちまして、令和4年度から使用する和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程教科用図書の採択審議を終了いたします。どうも長い時間にわたりありがとうございました。